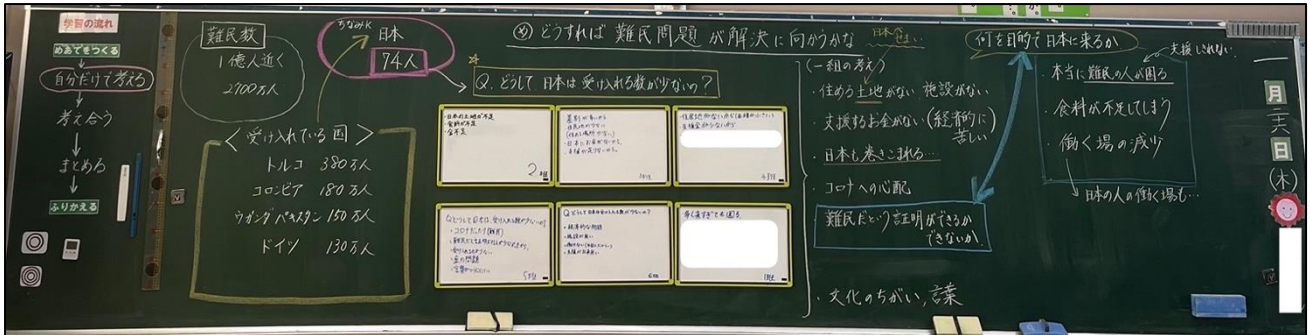


【別紙②】

【社会科 板書】



【児童のふり返り】

- ・私は今日、授業を通して難民問題の解決の難しさを改めて知りました。いろいろな国が全ての難民を受け入れることが難しい状況（お金や住むところ、仕事などのサポート）にあるので、まずは紛争や戦争をなくしていかないとこの問題は解決できないなと感じました。
- ・今、日本は資金が不足しているから、難民の全てを受け入れてサポートできる余裕が無いことが分かりました。難民の人々が生活しやすい環境を作ることって本当に難しいんだなって思いました。全員が幸せに生活することは当たり前でないことが分かったので、そのために今からできることは何かを学びたいです。
- ・今日の授業で思ったことは、難民の方が2000人も日本に来ようとしたのに受け入れが74人だけだったことがショックでした。でも、それだけの数しか受け入れられなかった日本の事情（サポートできる範囲の限界）を知ると、納得しました。無責任に受け入れてもその後に辛い思いをさせてしまうので、受け入れる人数を少しずつ増やすための方法や考えを学んでいきたいです。
- ・サポートが不足しているという理由で難民を助けられないのは悔しいと思った。自分だったら、仕事で経済を発展させてサポートする側になりたいと思った。
- ・日本は支援することが難しい立場でも74人の難民を受け入れることができたのは良かったと思う。そうした活動が、難民やその他の国に対して「日本は安全な国」であることを知らせ、これから頼られていく国のイメージにもつながる。ただ、授業中の議論でも出ていた「日本人の仕事が無くなること」については、正直難しい気持ちになった。何が正解かは分からないが、お互いに良い気持ちで生きていくために必要なことを考えていきたい。
- ・世界全体で難民の数が多く、ほんの少しの人々しか支援されていないことに驚きました。いろいろ戦争とかで辛い思いをされている人全員に支援してあげたいけど、どの国だってお金や土地や施設に限界があるから全てを支援するのは本当に難しいと感じました。日本も、もっと難民の受け入れられるように努力してほしいと思いました。私も、何かできることを探してやりたいと思いました。